

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570214303		
法人名	有限会社 つなぎの里		
事業所名	グループホームつなぎの里(うさぎユニット)		
所在地	秋田県能代市二ツ井町小繋字麻生道端87-3		
自己評価作成日	平成27年6月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成27年7月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は自然に囲まれた地域にあり、人と人とのつながりを大切にしながら、入居者や家族、地域の方との交流を大切にすることを心掛け、日々取り組んでいる。毎月1回は季節に合わせた行事を取り入れ、入居者の負担にならない程度の行事を考え、畑作りや花壇植え、地域の他施設へのお祭り参加、年2回の家族交流会、2年に1度の地域交流会など実行している。また、2ヶ月に1回開催している運営推進委員会や家族アンケートから意見を聞き入れ、入居者・家族・地域の方々が楽しんで参加していただけるホーム作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフは常に「笑顔」で利用者に接し、ホームの理念に基づき、入居者が人としての尊厳を大切に、生活を送る事ができるよう日々努力している。職員研修に関しては、ホーム管理者が中心となり「最良のサービスを当たり前に提供する」ための各種研修会を定期的の実施し、スタッフの資質の向上を図っている。また、支援に関しては、スタッフ一同、常に問題意識を持って支援に取り組み、昨年度もスタッフが作り上げた目標をクリアできるようチーム一丸となって取り組んでいる。地域交流については、地域住民との交流を深めるため、地域の中にある社会福祉施設としての役割について、前向きに検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	613 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホームつなぎの里(うさぎユニット)	事業所の理念である”自由・絆・笑顔”を職員の心得として、事業所内へ掲示し日々取り組んでいる。ミーティング等で理念の見直しを行い、取り組みなどを確認している。	事業所開所時、グループホームのサービスの意義について職員間で話し合い、事業所の理念を作り上げている。また、日頃のケアをする際の職員の心構えとなっており、理念が日々の実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所行事には地域交流会を2年に1回、また家族会を年に2回企画し、家族の方を招待して交流の場を設け、入居者や家族、地域の方と楽しく過ごす時間作りに取り組んでいる。	地域との交流を積極的に行い、各種行事等を通して地域住民とのより良い関係づくりが構築されている。また、今後は地域の中にある事業所としての役割について検討を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域住民からの相談や問い合わせがあった際は、その都度対応している。また、運営推進会議を生かし、地域の方にホームの状況など報告し、意見を取り入れご理解とご協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。意見や提案があった際はスタッフミーティングの際に報告し、話し合いを行い今後のサービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に行われ、参加した委員からは、より良いグループホームづくりのアドバイスを頂き、その内容について職員間で検討を重ね実践に結びつけている。また、ヒヤリハット報告も細かく説明し、事故等の再発防止の役割を果たしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通し、市の福祉課職員に参加していただき、事業所の報告をしながら、情報交換や助言などいただいている。	市の福祉課職員には、事業所としての悩み事や介護保険制度の取扱い等についてアドバイスを受け、その内容を職員間で共有し実践に結びつけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを目指しており、勉強会などを行い職員の意識を高めるよう努めている。やむを得ず身体拘束をしなければいけない入居者に関しては、本人または家族の同意を得ている。	事業所内にあるリスク委員会が中心となり、身体拘束をできるだけ行わないようなケアに取り組んでいる。また、事業所研修等積極的に行い、身体拘束における職員の意識づけが図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関して職員一人一人が注意を払い、内部研修を行ったりすることで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業について、現在3名の入居者が利用しており、必要な入居者には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族などの不安や疑問を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には意見箱の設置や年2回のアンケートで意見や要望をくみ取り、ミーティングで話し合い、今後の改善に向けた取り組みを行っている。また、入居者には日常のさりげない会話の中から思いや要望を聞くように対応している。	利用者及び家族の小さな声を、より深く汲み取ることができるよう、年2回アンケートを実施している。また、苦情解決に関する取り組みについては、管理者を中心として前向きに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は月1回のミーティングや申し送りにて意見を出し合い、職員の意見を吸い上げ管理者会議を通して、管理者から代表者へ報告し運営に反映するよう努めている。	職員の意見を反映した事業所研修に取り組んでおり、より良いサービスに結びついている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が労働時間・勤務状況などを報告しており、必要時環境整備を行っていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や協会などへの研修へ計画的に参加し、スキルアップに努めている。また、研修報告書の提出や報告をミーティングにて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。また、地域の活動として各事業所の集まりである“ほっとネット二ツ井”にも参加し、情報交換や研修の参加、内部研修など行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して相談出来る環境作りに心掛け、本人の不安な事や困っていることに耳を傾けながら本人の安心を確保するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に相談できる関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯物干しなどできることを一緒に行っている。また、皆で同テーブルを囲み一緒に食事をしたり、会話を楽しめるよう心掛けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1発行している”生活の様子”にて近況をお知らせし、面会時や支払の際に家族の方と話をし、本人を支えていく関係作りを築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人の希望する限り、馴染みの店を利用するなどして関係作りが途切れないう心掛けている。	利用者一人ひとりの希望に応じ、馴染みの店での買い物や美容室等の利用、自宅への墓参り等、これまで本人が大切にしてきた事を今後も継続できるよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良く楽しく過ごしていけるように、スタッフも一緒に話をし、声掛けにて会話を促す様、心掛けている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても継続的に関わりを持ちたい方に関しては、本人や家族の経過をフォローし、相談など気軽にできるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話など直接聞くことによって、意向の把握に努めている。また、家族からの話を取り入れその人らしい暮らしができるよう検討している。	自分の意見を表出する事が出来ない利用者に対しては、常日頃から状況観察を行い、本人の気持ちに寄り添った支援を継続している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から記入してもらっている。その他、日常の会話の中からも聞き取りをし、スタッフが共有できるよう記録している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り、カンファレンスなどで一人一人の現状を話し合い、共有するよう努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を取り入れたうえで、職員全員の意見を出し合って介護計画を作成している。	通常は6ヶ月に一度、介護計画の見直しを行っているが、心身の状況が変化した利用者が発生した場合には、その都度介護計画の見直しをしている。また、職員一人ひとりがケアマネジメントの理解と記録の重要性を理解している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果を終日記録し、改善が必要な時はミーティングで話し合い、介護計画に取り入れている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園など交流を持ち、また中学校等の実習などの受け入れにより地域と関わられるよう取り組んでいる。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、または家族が希望に添えるよう努力している。各個人についての病状や状態について適切な医療や看護を受けられるよう、スタッフ間、家族、かかりつけ医との連絡や話し合いを行っている。	利用者及び家族が個々に希望するかかりつけ医に受診し、利用者の心身の状況安定を図っている。また、受診結果については、家族と職員が情報共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が適切な医療・看護を受けられるよう日々の観察に努め、スタッフ間での話し合いを密にしている。また、家族やかかりつけ医と共に連絡を取り合っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の状態の把握に努め、管理するとともに関連病院、かかりつけ医、家族との相談や情報交換が行えるよう関係作りに努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に対してのケアについては、家族やかかりつけ医との話し合いを密に取れるよう取り組んでいる。また、本人に合ったケアが行えるようカンファレンス等で話し合っている。	事業所管理者及び看護師が中心となり、終末期に向けた取り組み強化が図られている。また、かかりつけ医との連携を強化する事で、利用者個々の状態安定に繋げている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会などへの積極的な参加を行っている。また、月1回のミーティングでの勉強会で確認の場を設けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施やミーティングにて反省会を用いて、全職員が避難方法を身につける様努めている。また、運営推進会議などで地域の方への協力の呼びかけを行っている。	地域住民に協力して頂き、年2回避難訓練を実施している。特に訓練等で発生した改善点等は次回の訓練で改善する事ができるようミーティングを重ねている。また、災害時に係る備蓄資機材及び食料等については、定期的に点検を実施し、不測の事態に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を配慮した声掛けや傾聴すること、入居者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない配慮を心掛けている。	職員は、利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーに配慮した支援を心がけており、事業所理念を意識した取り組みがされている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々傾聴、声掛けなどにより希望を表出しやすい環境作りを心掛け、自己決定の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パズルや字の練習など入居者に希望を聞きながら、その人らしい暮らしができるよう努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	入居者の希望時には行きつけの床屋への送迎を行い、困難な方には訪問美容を利用している。また、入居者の意向に沿った洋服選びなどできるよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせて、一緒に調理や盛り付け、後片付けなど行っている。	地域住民から季節の食材を提供して頂いたり、利用者が丹精込めて栽培した野菜が食材となり季節を感じ取れる食事の提供がされている。また、台所がホールの横にあり、自然に食事を準備する音や匂いが利用者にも届き、家庭的な雰囲気を感じ取れた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事・水分摂取状況を把握し、バランスのとれた食事や水分が確保できるよう、一人一人に合わせた調理方法やとろみ材の使用など工夫し、提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び、毎食後に入居者の状況に合わせた口腔ケアを行っていたり、必要時、介助を行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を記録することで、排泄パターンを把握したトイレ誘導や介助を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況を細かくチェックし、排泄誘導が必要な利用者に対しては、さりげない言葉かけを行い誘導している。また、日中は常時おむつを利用している利用者に対してもトイレ誘導を行い、トイレで排泄する大切さを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況を観察し、食物繊維の摂取や処方されている下剤の調整などで、便秘の予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	それぞれの体調や健康状態の観察に努め、バイタル測定など行いながら入浴できるよう支援している。	利用者と職員が2人で行う入浴では、利用者の想いや希望を汲み取る大切な時間であることを職員が認識している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や毎日のラジオ体操を取り入れ、夜間良く眠ることができるよう支援している。日中、居眠りが多い入居者に関しては声掛けを多くし、対応している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化の観察を怠らず、いつでも看護師に相談できる体制を作っている。また、一人ひとりの薬内容などに関しては処方時、ついてくるお薬の写真を参考に確認するようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを出来る範囲で行っていただき、季節ごとの行事や外出などで気分転換ができるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	一人ひとり、その日の体調や希望に沿って散歩や畑仕事、花植えなど外出できる機会を設けている。また、年間の行事計画を立て花見や紅葉、ドライブ、地域行事への参加などを行い、入居者が家族と外出・外泊の希望がある場合には相談に応じ対応している。	利用者の希望や想いに寄り添った外出支援を行い、日々の生活に潤いを与えている。また、散歩中、地域住民から声をかけてもらったりと、より良い関係づくりが構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理でいる方はいくらか小遣いを所持している。管理が難しい方は、ホームで管理し、希望がある際は職員が代行し、対応している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は、職員が電話をかけ本人が通話できるよう支援している。また、毎年年賀状を手作りし、家族へ送っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を置いたり、飾りをつけ季節感を取り入れるようにしている。また、廊下へ行事や日常の様子の写真を貼ることで、会話の幅が広がり楽しめるようにしている。各場所へ温湿度計を配置し、適切な温度管理をし、トイレは換気や消臭に努め不快のないよう過ごせるようにしている。	共用スペースのホールからは、向かい側の山並みや田園風景が見渡せ、四季の移ろいを感じ取事が出来る。また、ホーム全体の清掃が行き届いており、清潔な空間づくりが提供されている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	一人ひとりの思いをくみ取り、食卓やソファで気の合う入居者同士で座っていただいたり、テレビをよく見る方に関してはテレビがよく見える場所へ座っていただくなど居場所の工夫をしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな物や使い慣れた物、家族との写真などを置いたり、面会時は家族とも話しやすく居心地良く過ごせるよう配慮している。	利用者個々の居室には、利用者がホーム入所前から使い込んだ品々が沢山あり、居心地の良い空間づくりがされている。また、本人が大切にしている仏壇等を持ち込んでいる利用者もあり、利用者個々の想いが大切にされている事を感じ取ることができた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、風呂場へ移動しやすいよう手すりを設置し、場所がわかるよう目印をつけている。		